

研究構想図

国語科の目標

国語科の目標

- 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝えあう力を高める。
- 思考力や想像力及び言語感覚を養い国語に関する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

学校の教育目標

知性と創造性に富む子を育てる。
豊かな情操と強い意志を持つ子を育てる。
健康でたくましい心身をそなえた子を育てる。

いしかわ学びの指針 12 力条の推進

第 1～6.8 条と第 11 条

特別支援教育のねらい

学びにくさのある子への支援を行う
通常学級での指導の工夫

全員がわかる・できる授業（授業のユニバーサルデザイン化）

～学習の基礎となる国語力の育成を通して～

研究の仮説

焦点化・視覚化・共有化などの指導の工夫や個別の配慮を効果的に行うことによって、すべての児童が参加し、わかる授業ができて、どの子も学力が向上するであろう。

研究の視点

(1) 指導方法の工夫

視点4 個に応じた支援

支援計画 スモールステップ ヒントカード

視点1 焦点化

- **ねらいの明確化と論理の深化の工夫**
授業の構造化
発問の焦点化
活動の焦点化
教材の焦点化
- **指導内容の系統化**

視点2 視覚化

- **視覚・感覚・動作を入り口に思考へ工夫**
① **挿絵・写真・動画**
動作による理解
② **センテンスカード**
図・色で文章構造化
③ **整理された板書**

視点3 共有化

- **一人の考えを他へ伝え、理解を深める工夫**
① **ペア学習**
② **グループ学習**
③ **意見の再現・解釈**
④ **比較検討**
⑤ **児童意見の板書**

(2) 学習環境の工夫

- ① **場の構造化** ② **時間の構造化** ③ **刺激量の構造化** ④ **ルールの明確化** ⑤ **学級内の相互理解**
使いやすい状況 見通し、時間配分 掲示物の調整 授業のルール QU の活用、人間関係づくり

きらめきシステム（きらめきタイム・チャレンジ学習・家庭学習強化週間）・**屋**読書